

令和6（2024）年度 栃木県浙江省友好交流員レポート（9月分）

栃木県浙江省友好交流員 加藤 かれん

9月初頭に日本を出発し早一か月が経とうとしている中で、第一回目のレポートとなります。夏の暑さが少しずつ和らぎ、杭州の市花でもある金木犀の香りがどこからともなく漂ってきており秋を感じさせます。毎日が新鮮で、一から始まった一か月間を振り返りながらレポートを綴っていきます。

🌸 杭州市での生活がスタート

上海浦東空港から浙江大学まで高速道路に乗り2時間半。

到着後は入寮手続き。受付は世界各国の生徒で溢れかえっている。

新品の布団、シーツ、枕等は360.50元（約7,210円）

入寮のデポジット（退寮時に返金される）

824元（約16,480円）

SIMカードは寮の前で買える。200元（約4000円）で5か月分、月に350ギガまで使える（データが350ギガ、500分間の会話付き）



・中国の番号をゲット！アリペイと日本のクレジットカードを連携させてお買い物ができる！
と思ったところ、日本のクレジットカードで登録している番号での認証が必要のため買い物が現金のみとなった。空港で両替した現金で数日間を過ごした。

・トイレはトイレトペーパーが無いところもあるので、持ち歩き用のものが必須。



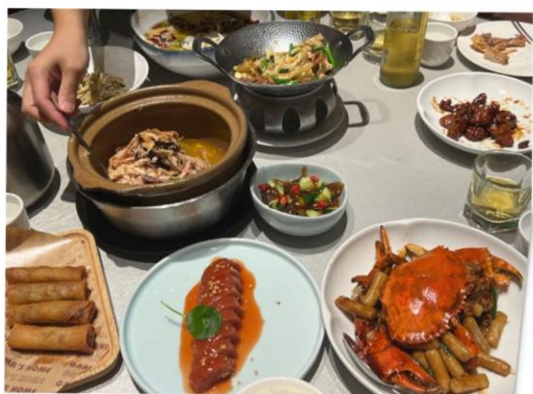
📖 勉強について

1～7までのクラス分けテストを渡航前にオンラインで行った。授業は基本的には全て中国語で行うが時折先生は英語を交えて話す。先生の中国語はとても聞きやすく、2.3週間ほどで耳が慣れてくる感覚があった。
宿舎前のカフェは22:30まで開いている。



🍲 食事について

杭州市は辛い物がそこまで主流では無く、微辣(普通の辛さ)と注文するとどんな食事でも程よい辛さで美味しく食べられた。今度は最辣(辛口)を食べてみたい。



- ・店内では基本的に携帯でオーダーを取れるが、店員さんとコミュニケーションを取るのも勉強になる。
- ・食事代はそこまで高くない。デパートのレストランに行って友人複数人でシェアをすれば 50 元(約 1,000 円)でお釣りが来る。



↑火鍋と聞いて日本人が一般的に思い浮かべるのがこのようなものだろう。これは杭州の四川料理店で食べた火鍋。辛いというより、舌が痺れるような感覚。

←これは杭州で食べた鶏肉とココナッツの火鍋。甘みのあるスープが新しく、とても美味しかった。



🍴学食について

学食が充実しているので、基本的には校内で済ますことができる。学食は広く、何か所があるが時間帯によってはかなり混み合う。中華料理が主だが種類が日によって変わり、少し油っぽく感じるものもあるがさっぱりしたものもあり毎日選ぶのが楽しい。



↑ 8元(約160円)程の食事内容

←少しゴージャスに食べたいときでも20元(約400円)程度

学食は場所にもよるが6時～9時、11時～13時、16:30～19時で営業。

22時まで開いている所も一か所だけある。

🌸観光について

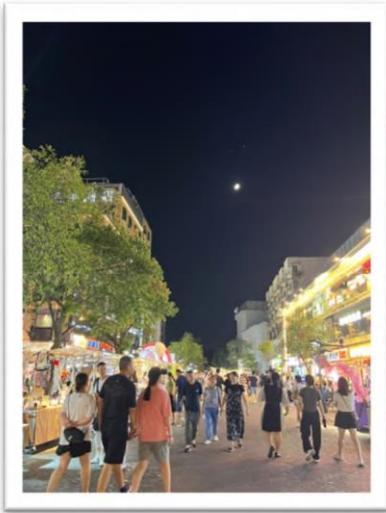
残暑が続き湿度が高く気温が40度近くなる日もあった為、沢山の場所へ足を運ぶことは今月は控えたが世界文化遺産である西湖は地下鉄に乗り30分程で到着するので数回訪れた。雨上がりは一層美しい西湖を散歩することができた。



西湖は周囲約15km。

10か所の景色が良いスポットを西湖十景と称する。いつか全てのスポットに訪れてみたい。

ライトアップされた夜の西湖を訪れた後は、周囲を歩き観光を楽しんだ。西湖の周りは煌びやかで、深夜近くなっても人通りが多い。店も飲食店をはじめ服屋、雑貨屋が立ち並んでいる。



ナイトマーケットは歩いているだけで楽しい。カエルを素揚げし辛く味付けしたものを食べてみた。触感は鶏肉のようで、美味しかった。



中国に来て、不安なことも多くあったが生活は毎日新しい発見の連続で、充実した日々を送れている。適応するには文化を受け入れ、理解することも重要であると考えられる。しかし言葉の壁は高く、悔しい思いをする事が絶えない。それでも浙江省の人々は優しく、私の拙い中国語にも耳を傾けてくれる。周囲の助けを借りることが多い最初の一か月間であったが、日々の成長を着実に感じながら過ごしている。授業にも慣れてきて、先生に質問をすると自分が納得するまで優しく教えてくれるので、日本で勉強してきた内容の理解を深めることができた。来月には季節が変わり、景色も変わってくるだろう。行動範囲を広げ、また新しい報告ができることを期待している。